



	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
9月	716	483	467	334	7	2,007	754	52	174	207	147	478	3,819
累計	4,257	2,887	2,714	494	33	10,385	6,571	294	1,079	981	802	2,822	22,934

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

210.5 江戸幕府歴代 15 将軍（家康～慶喜）のそれぞれの乳母の名前（春日局等）を知りたい。

『徳川「大奥」事典』（竹内誠他／編 東京堂出版 2015）第二部 将軍と「大奥」の各将軍をめぐる女性についての記載や巻末の索引より、複数の乳母の名前の記述を確認することができた。敬称として高級女官の「局」の称号が与えられている乳母もいる。

第2代将軍秀忠の乳母—大姥殿^{おおおばどの}（大姥局）（p.201）今川家家臣の河村善右衛門重忠の妻

第3代将軍家光の乳母—お福（春日局）（p.203、246）稲葉正成の後妻

第4代将軍家綱の乳母—矢嶋（矢嶋局）（p.205），三沢（三沢局）（p.105、205、426）小堀政一の側室

第7代将軍家継^{おち}の御乳は三人、御抱守は一人（後に四人に増員）他（p.208）

第10代将軍家治の乳母 岩瀬（p.212）

第14代将軍家茂の乳母で御客応答 波江（浪江）（p.99、218、427）

『寛政重修諸家譜 第18 新訂』（高柳光寿他／編 続群書類従完成会 1981）では、p.371 で河内が第4代将軍綱吉の乳母と記載されている。

『徳川家康公伝』（中村孝也／著 1965 東照宮社務所）では、第1代将軍家康の乳母について、p.57 で「天野貞有の妻某・清水孫左衛門の娘たつ女などが乳母として選ばれ」と記載されている。

『歴史人 2022 年 8 月号 徳川家康 天下人への決断』（ABC アーク 2022）では、p.100 に、「家康の乳母が内藤勝重（政重）の妻「まつ」である。」との記述がある。

『日本史の内幕 戦国女性の素顔から幕末・近代の謎まで』（磯田道史／著 2017 中央公論新社）では、家康の乳母について p.88 に以下の記述がある。「「水府系纂拔書」で嬉しかったのは、長年、気になっていた家康の乳母の死の秘密が解けたことだ。家康は数え三歳で実母と離別。乳母が育てた。家康は六歳で疱瘡にかかり死線をさまよった。そのとき乳母が「神に誓て（家康の）御命に替ん事を祈る」。幼い家康の疱瘡が平癒した日、乳母は死んだとされる。これが自害か、看病疲れの過労死か、知りたかったが、この史料には「神約を守て遂に自殺す」とはっきり記されていた。」とあるが、この本では乳母の名前までは確認できなかった。なお、上記の「水府系纂拔書」は、水戸藩士系譜を収録した史料であり、茨城県立図書館デジタルライブラリー https://www.lib.pref.ibaraki.jp/guide/shiryuu/digital_lib/syourakanbunko/index2.htm（2023.12.12 確認）の松蘿館文庫の第36巻に収録されている。

『天璋院篤姫の生涯 篤姫をめぐる 160 人の群像』（新人物往来社 2007）では p.77 で歌橋（法好院）が第13代将軍家定の養育に関わったと記載されている。

その他の将軍の乳母の名前は、調べたものの確認が難しかった。理由として、上記のように1人の将軍に複数の乳母がつく例もあり、たとえば、『大奥学事始め 女のネットワークと力』

(山本博文／著 日本放送出版協会 2008)の「乳母の地位の低下」(p.58-61)の項には、「春日局の後、乳母の地位は低下する一方だった。十一代将軍家斉には、五十三人もの子が出生するので、大勢の乳母が必要だった」との記載がある。

『幕臣伝説 史実と噂のはざま』(氏家幹人／著 洋泉社 2014) p.136 の「御乳持」の項で『女中帳』をひらくと、大奥女中たちの新規採用や退職等の記事にまじって、「御乳持」の記事が頻繁に目に入ってくる。たとえば、文化二年(一八〇五年)閏八月には、市川茂左衛門(御徒)の妻の「たち」が「御子様方御乳持」に採用され、同十月には小松仲右衛門(一橋小普請支配世話役)の倅の妻「せん」が、同じく御乳持に採用されるというように。文化六年、七年になると、御乳持の採用は急増する。」とある。他にも「きす」「せい」「ひよ」「りつ」などの旗本の妻の名が挙がっているが、圧倒的多数は御家人の妻たちだったとあるが、「御子様方御乳持」とひとくくりになっているため、文化年間の将軍家斉のどの御子の御乳持だったかは分からない。

上記で挙げられている史料「女中帳」(国立公文書館内閣文庫蔵)は国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/> (2023.12.12 確認) からダウンロード可能、享保 17 年～宝暦 1 年(吉宗～家治)及び文化 2 年～文化 7 年までの記録となっている。

K446 日本から見る月はうさぎがお餅を付いているが、なぜそう見えるのか？他の国から見る月はどういう風に見えるのか？また、月について分かりやすい本があれば知りたい。(※質問者は小学校低学年)

月の模様の見え方については①②を、月について理解しやすい本として③④を提供した。

①『月をみよう(科学のアルバム1)』(藤井旭／著 あかね書房 1991)

昔の人の月の模様の見え方について、p.9の「月のちけい」で、日本の「ウサギのもちつき」、西洋の「きれいな女の人」、西洋の「カニ」について、それぞれそう見えるであろう月の模様のカラー写真と、イラストを掲載している。また、月の地図や、月の満ち欠け、クレーターについても、大きな写真やイラストで分かりやすく解説している。

②『月の大研究 いちばん近くてふしぎな星、すがた・動き・人とのかわり』(縣秀彦／監修 PHP 研究所 2009)

月について、月ができた仕組みや、月の公転、月の文化、月食、月までの距離など、テーマごとに写真を多く使って紹介している。また p.74 の「世界でちがう、月のもよう」で、前述の①でも記述のある「もちつきをするうさぎ」、「ハサミをふり上げるカニ」、「女の人の横顔」の他に、南アメリカの「ロバ」、日本の「まきをかつぐ子ども」についても、月の地形の呼称の「晴れの海」や「静かの海」、「しめりの海」、「雨の海」などが、それぞれの見立てのどの部分を表しているかをイラスト付きで詳細に解説している。また他の見立てとして、南アメリカの「ワニ」、北ヨーロッパの「本を読むおばあさん」、アラビア地域の「ライオン」の紹介もある。

③『月のかたち 毎日変わり続ける月のようすがわかる(月のひみつシリーズ)』(藤井旭／監修・写真 ほるぷ出版 2018)

月齢ごとの月の大きな写真が掲載されており、毎日変わり続ける月の様子が視覚的に理解できる。

④『つきのせかい』(ランクリン・M・ブランリー／ぶん ブラディミール・ボブリ／え 山田大介／やく 福音館書店 1973)

実際の月の世界の様子を、宇宙飛行士やロケットとともに絵本の形式で紹介している。

他にもこんな質問ありました(クイック・レファレンスから)

分類

質問

⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など

C10/B1 千葉胤道^{たねみち}について、分かりやすい解説のある資料はあるか⇒『千葉常胤とその子どもたち』(千葉氏顕彰会／編 啓文社書房 2018)の p.74 に千葉市繁栄の基礎を築き、鎌倉幕府の樹立に貢献した千葉常胤の五男である国分胤道(下総国府に近い国分領を与えられ国分五郎と称す)についての項がある。